

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会（全体会） 第1回
議事要旨

1. 日時 平成19年10月31日（水）14:30～16:30
2. 場所 学術総合センター 特別会議室101・102
3. 出席者 杉戸委員長，有森委員，伊賀委員，稲葉委員，井部委員，生出委員，
真田委員，柴田委員，関根委員，徳田委員，宝住委員，三浦委員，
矢吹委員，吉山委員，徳重委員，相澤委員，吉岡委員，田中委員
4. 会議の概要
 - (1) 委員紹介
 - (2) 委員会の運営について
 - ・ 委員会の設置までの準備段階の経緯について説明があり，委員会の内部に実務委員会を置き，実務委員会の内部に作業部会を置くことが了承された。
 - ・ 報道機関，医療関係機関，患者関係機関などから会議傍聴の希望があれば，事前に委員会で諮ったうえで承認することが，了承された。
 - ・ 会議の内容は，会議録と議事要旨の2つの形式でまとめ，議事要旨は国語研究所のホームページで公開することが，了承された。
 - (3) 「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）の趣旨について
 - ・ 設立趣意書の内容を確認し，趣意書に肉付けする形で，委員会の活動を展開していくことが，合意された。
 - (4) 「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）のスケジュール，雛形，方法について
 - ・ 準備段階で検討された，提案までのスケジュール，提案の雛形や方法について説明があり，討議を行った。
 - ・ 提案に取り上げる語彙について，その選び方，範囲の取り方，分類方法について，討議を行った。
 - ・ 提案に記述する内容，記述に用いる言葉について，討議を行った。
5. 会議での主な意見
 - ① 「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）の趣旨について

- ・ 対象を医療従事者とし、医療者の在り方、あるいは医療者の使う言葉が変わらなければならないという視点は、活動の中で徹底していくべき重要な視点である。
- ・ 提案は、一義的には医療従事者に対する提案で、それがひいては、患者や家族にとっても参考となることに期待するものである。患者や家族の参考となることが主目的ではないことを、常に念頭に置きたい。

② 「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）のスケジュール、雛形、方法について

イ) 提案に取り上げる語彙の選び方について

- ・ 活動の趣旨は「患者が分からない言葉を分かりやすくする」ことであり、取り上げる語は専門家が選ぶのではなく、患者に分からない言葉を集めることが重要である。患者の分からない言葉を取り出す調査を、きちんとして行うことが重要である。
- ・ 語彙を選定するための調査では、患者に対して医療従事者が使う「頻度が高くても分かりにくい語」を選ぶという観点を持つことが、重要である。
- ・ 語彙を集め、その中から科学的に選ぶという手段は、あらゆる分野・場面における専門用語の問題に対して、納得の得られる方法のひとつであるだろう。
- ・ 患者に対する調査によって患者の分からない語を収集するのは、技術的には難しい。コーパス（電子化された大量の言語資料）などから採集・抽出された語彙、医療従事者に対する調査によって採集された語彙について、患者に対して調査を行って判断する、という方法を取るのが、現実的である。
- ・ コーパスによる語彙抽出は、次の手順で、難解な語彙と重要な語彙を取り出す方法に基づいて、実施していく予定である。まず、医療媒体（医療雑誌・新聞の医療記事・インターネットの医療情報）と一般媒体（一般書籍から無作為に抽出した文章）の使用語彙を比較し、医療媒体に特徴的な語彙を抽出し、さらに、医療媒体の中でも、医療従事者向けの媒体と一般人向けの媒体の使用語彙を比較し、医療従事者向け媒体に特徴的な語彙を抽出する。これによって、一般の人にとってなじみの薄い難解な語彙が取り出される。重要語彙の抽出は、一般人向けの医療媒体において、広い範囲で繰り返し使われる語彙に着眼して実施したい。こうした語彙は、医療情報に接する際に、知っておくことが必要な語彙と考えられるからである。

ロ) 提案に取り上げる語彙の範囲や分類について

- ・ 提案に取り上げる語数が数百語になると、利用度が下がることが予測される。端的に、50語とか100語とかに、絞り込んだ方が良いのではないかと。

- 医学の進歩に伴い医療の言葉は急速に増えてきているが、医師が患者に伝える技術は全く上がっていない。かみくだいて説明することの苦手な、言語に弱い医師にとっての手引きとなるものを作らなければならない。50語ならば50語のお手本を示すことができれば、すばらしいと思う。
- 50語とするにしても、「この50語を説明すれば十分だ」という50語を選ぶことは不可能であろう。語の問題を類型化し、その類型の典型例である語を選んで、分かりやすくする工夫を示すことが必要である。それによって、利用者である専門家は、提案を独自に展開することができる。
- 語彙の分類に際しては、「なぜ伝わらないのか」「なぜ理解できないのか」という観点に、重点を置くべきである。その観点から同じタイプの語をまとめ、タイプごとに工夫の仕方を示せばよいのではないか。
- 問題を把握し同じ類型に属する語彙から典型例を取り上げることで、50語を取り上げれば30倍の1500語を取り上げたくらいの価値がある、そういう提案を目指したい。

ハ) 提案に記述する内容について

- 医療従事者が患者に使った言葉が、実際に患者に誤解されていることを示すことが、必要である。
- 医療従事者に対する調査では、言葉が伝わらなかった理由を、患者に対する調査では、言葉が分からなかった理由を、それぞれ尋ねたい。その調査の回答は、語の分からなさの要因の分類や、提案の総論をまとめる際に、非常に有益だと思う。
- 医師の側の「説明したつもりでも伝わっていなかったこと」に関する調査にも期待したい。医師の失敗談を示すことによって医療者が言葉の持つリスクに気づき、リスクを感じ取るセンスを磨ける、そういう提案にできればよい。
- コミュニケーションをきちんととることが言葉を理解してもらうための最善の手段であるので、単なる言葉の説明ではなく、コミュニケーションに踏み込んだ記述にしたい。
- 医療従事者が、コミュニケーションについて考える力を養うことにも配慮してほしい。伝わりにくいならどうしたら良いのか、という考え方を示せたら良い。
- 専門的で高度な、命にかかわるような重要な情報をきちんと伝えるためにはどうしたら良いのか、という問題は、単なる言葉の問題ではない。ストレス下で理解度が低下している患者にきちんと情報を伝えるためにも、コミュニケーションの問題にも踏み込んでほしい。
- 患者に対して「易しい／優しい」言葉を使うという視点が、現在の医療の現場には欠けている。これが大事であることを示したい。
- 提案は、主として、話し言葉による伝達場面を想定しつつも、書き言葉による伝

達において生じる問題にも、対応できるものであるのが望ましい。

二) 提案の記述に用いる説明の言葉について

- 例に取り上げられた「アルブミン」の説明の中には、「体液」という、普通患者に対して使わない言葉が出ていて、問題だと思った。
- 説明の中で使う言葉も、分かりやすい言葉に限定すれば、医師が提案にない言葉を説明する際に、この本に出てくる言葉で説明すれば伝わる、というような応用ができる。
- 新聞などでは、医学関連の記事や子供向け記事などで、専門用語が短く非常にうまく説明されている。そうしたものも参考にしてよいのではないか。

ホ) その他

- 提案で取り上げる語はあくまでモデルであり、この提案を、今後どのように応用していくのかについても、検討しなければならない。
- 医療現場が、提案を利用する可能性を広げる観点から、患者のバックグラウンドと言葉の理解との関連性が把握できるような調査を行うことも必要である。

以上